

ふくりゆう

発行所 日本下水道文化研究会運営委員会
 発行責任者 酒井 彰(運営委員会副代表)
 発行年月日 平成10年9月15日
 印刷所 (株)愛 甲 社
 編集 小松建司 高橋敬一 斉藤由勝
 (通巻13号)

1998年のバルトン忌

谷口運営委員長代理の開会の挨拶と東京都の赤川水道局長のバルトン忌へのメッセージが読まれ、98年のバルトン忌は始まった。

台湾でのバルトンの活動の講演が始まった。聞いて「これ程感動的な話があるのか」と思った。母国を遠く離れ、未知の国「日本」の人々を助けるために、イギリスから日本にきた。9年間、日本各地で上下水道を作り、そして更に疫病の蔓延する台湾に渡り、3年間、衛生状態を改善するため働いた。やっとしばらくの間、祖国に帰ろうと思った矢先に、台湾でマラリアにかかり、日本で客死してしまったバルトン。



かつて、私は3年間インドネシアで技術協力に携わったことがある。技術協力とは、いくら技術を持っていても出来ない。「最初から仕事」と言う訳には行かないのである。相手に「心底」信用され、心を開いてもらい、初めてその人の技術が生きていくのを見えてきた。だから、バルトンの苦勞はとてもよくわかる。

しかし、彼の業績から察すると、彼はきっと、とても日本を愛し、日本人も彼を愛したことだろうと思う。日本人や台湾の人達に愛されたバルトンの人柄だから偉大な足跡を残せた。

明治の日本を駆け抜けて行った一人の技術者、バルトンの生涯の最後の頁、「台湾の仕事と人々との交わり」を斉藤博康氏は今回の講演で淡々

と語ってくれた。後藤新平との交わり、バルトンの弟子の浜野弥四郎のこと、フィリピンへ向かう途中で船が



▲八田与一の銅像。台湾にて斉藤博康氏撮影

沈没し死んだ八田与一の悲話。その後、彼を追い、妻は台湾で夫が造ったダムに身を投げて死んだことが語られた。

いまなお、八田与一の命日には台湾の人達が集まり、冥福を祈っているという事である。バルトンの人柄とエネルギーが、弟子たちに苦難と戦わせ、長期に渡り台湾で仕事をさせたのだらうと思えてくる。

講演が終わり、青山墓地のバルトンのお墓に祈り、献花し、我々26人の1998年の8月5日は終わった。

東京都清掃局石井明男



衛生事業の先達を追悼



バルトン百回忌

関係者40人が参加

わが国上下水道設計に尽力

日本下水道文化研究会主催の「98年度バルトン忌」の開会に当たり一言挨拶を申し上げます。今年バルトン氏没後100回忌であると同時に、東京に近代水道ができてちょうど百年にあたる記念すべき年でもあります。それまでの東京の水道は、神田上水や玉川上水で運び入れた水を、木や石でできた樋を通して給水するもので、川の水を処理せずにそのまま飲むのでした。しかし、明治に入って水源水質の悪化や施設の老朽化が目立ち始め、コレラの流行によってたくさんの方が命

98年度バルトン忌へのメッセージ

東京都水道局長 赤川正和

を落としました。こうして、東京においても欧米の近代的な水道を造ろうという気運が高まり、多くの外国の水道技術者の意見をもとに東京の近代水道の設計がなされました。なかでもバルトン氏のまとめた設計案からは大きな影響を受け、バルトン氏は東京水道にとっても深くかわりのある方となっています。

本日、バルトン氏没後100回忌にあたり、ここに改めて感謝の意を表するとともに、日本下水文化研究会の益々のご発展をお祈りして、私の挨拶と致します。

▲サンケイ新聞 1998/8/7

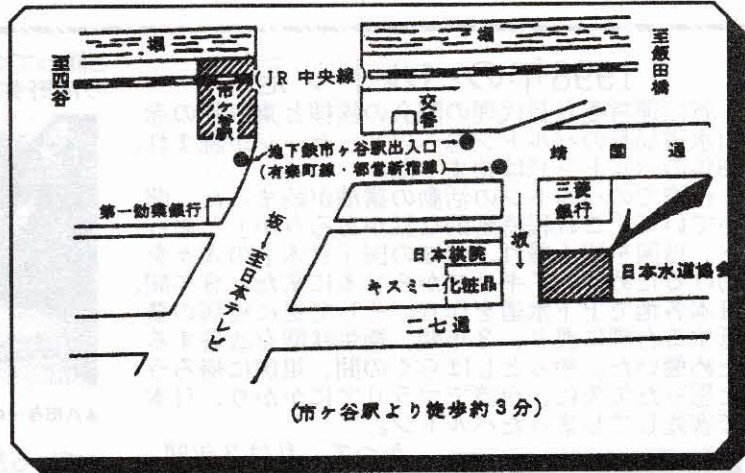
98年度第2回定例研究会のお知らせ

日本下水道文化研究会

日時 : 1998年9月25日(金)
 午後6時30分～9時
 場所 : (社)日本水道協会7階会議室
 日本水道協会ビル(市ヶ谷駅より徒歩3分 案内図参照)
 会費 : 無料 (会員以外の方も歓迎します)

テーマ1 : 地球環境時代の都市づくりの考え方
 講師 : 谷口 孚幸(たかゆき)氏
 大成建設(株)営業推進本部開発部長

テーマ2 : 英国における環境ホルモン対策への取り組み
 講師 : 住山 真氏
 (株)日水コン 下水道本部技術推進部



谷口 孚幸氏のプロフィール

大成建設株式会社 勤務。昭和43年北海道大学工学部卒業、同年大成建設に入社。17年間建築設計部で建築・都市環境計画に従事する。その後、地域開発部、開発本部を経て平成6年開発本部計画部部長、平成7年同開発管理部部长、平成8年営業推進本部建築プロジェクト推進部部長、平成10年現職、営業推進本部開発部部長に就任。著書として地球環境都市デザイン(理工図書)他4冊有り。工学博士

住山 真氏のプロフィール

株式会社日水コン 勤務。昭和58年徳島大学工学部卒業、昭和60年徳島大学大学院工学研究科修了。同年日水コン東京下水道事業部に入社。昭和63年名古屋下水道部、平成3年東京下水道事業部を経て、平成6年現所属、下水道本部技術推進部開発課で勤務

人孔とは?

8月16日に放映されたNHKテレビ「クイズ日本人の質問」で、「ある業界では日常的に使われている言葉であるが国語辞典にも漢和辞典にも載っていない人孔とは何か?」という問題が出されました。ものしり博士の答は次のとおり。

- ①ピアスの穴を開けたりする「人体に穴を開ける」ことで、医療業界で使われている。
- ②人の目はごまかせても空港の金属探知機はごまかせないので、空港や探知機製造業界で使われている「空港の金属探知機」のこと。
- ③「地図上で人の住んでいない場所」のことで、マーケティングリサーチ業界が使う。
- ④「超人」の文字は「ウルトラマン」のこと、「人孔」の文字は「マンホールのこと」で下水道業界で使われている。解答者グループの3組はマン

ホール、1組は地図上と答えていました。

正解の解説者は当会の会員でもある日本グランドマンホール工業会の藤原さんでした。

番組のナレーションでは横浜市の下水道設計をした三田善太郎氏が英語のマンホールを訳して人孔の文字を当てたのではないかと、と言っていました。

裏話ですが、この問題の最初は「人孔とはいっごろから使われた言葉なのか」というものでした。横浜市の下水道工事は明治14年から16年にかけて行われていますが、東京の神田下水(明治17年工事着手)や東京市下水設計の第1回報告書(明治22年)ではマンホールのことは「掃除枮」といわれていて「人孔」という言葉は使われていません。明治34年に出された内務省の通達の中には人孔という言葉が使われています。

どなたか、「人孔とはいっごろから使われた言葉なのか」探ってみませんか。(栗田)

訃報

平成10年8月24日 『歳時 下水道略史』を書かれました 渡辺 健 氏(享年75歳)が亡くなりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

「ふくりゅう」では **原稿を募集** しています。身近な話題などでも結構ですので送ってください。又、「ふくりゅう」に対する意見等もどしどし送ってください。

〒135-0016 東京都江東区東陽7-1-14
 東京都下水道局東部第一管理事務所業務課 小松 建司
 FAX 043-294-6127
 E-mail k-komatsu@pop12.odn.ne.jp

編集後記

前号で、研究会のお知らせ等は、「ふくりゅう」で行う、と書いた。よってこの号は、予定外の発行となることになりました。会のロゴ、レターヘッド、名称の英文については、応募期間を10月末までのばします。今、アイデアが浮かんだ方は応募して下さい。(建)